

(様式第3号)

平成19年度調査研究中間報告書

調査研究 課 題	子宮頸癌の新しい診断法の開発
計画期間	平成19年度～21年度 3年間
調査研究 計 画	少数の試料(組織, 血清)を用いてパイロット・スタディを行い, 最適実験条件の検討を行うとともに, タンパク質の発現プロファイルを比較し, 癌組織に特徴的な発現の仕方を示すバイオマーカー候補を選別する。
進捗状況	市販の8ドナーの組織試料(癌部, 非癌部のセット)からタンパク質を抽出し, SELDI-Tof/MSで分析した。
これまでの 成果の 概 要	<p>プロテインチップの種類, バッファの組成やpHの違い, エネルギー吸収分子の違い等によって様々なタンパク質が検出された。分子量3,000から100,000までの範囲の中で2,114のピークが検出されたが, 得られたプロファイルをもとにシングルマーカー解析を行った結果, マーカー候補タンパク質として151ピークが見い出された。そのうち癌部で発現が増加しているピークが108本, 減少しているピークが43本あった。また, 階層的クラスタ解析及び主成分解析を行った結果, 両法とも概ね癌部, 正常部の2群を分類することができた。</p> <p>151ピークの中に, 各試料に共通して発現が大きく増加, 又は減少したタンパク質がみられたので, これらを選定, 同定することによって腫瘍マーカー又は前癌病変の進展, 消退を予知するマーカーとして利用できる可能性があると考えられた。</p>
今後の 計画・課題 対応方法	組織で発現が大きく増加, 又は減少しているタンパク質が同じドナーの血清中にも認められるか実験する。